

ジンコソーラー第2四半期決算発表、下半期の見通しが予想を上回る

8月30日、ジンコソーラーは第2四半期の決算発表、海外市場の強力な駆動の下で、四半期の営業成績と下半期の展望はいずれも予想より優れている。太陽光モジュールの総出荷量は3,386MWで、前年同期比21.2%増、前月比11.5%伸びた。総売上高は69.1億円で、前年同期比14.1%増、前月比18.7%伸びた。粗利益率は16.5%で、前年同期比4.5%伸びた。

ジンコソーラーは四川樂山での新工場が2019年末に稼働した後、5GWの単結晶ウェハの生産能力を増加させ、同時に四川樂山第二期5GW単結晶ウェハプロジェクトの前期準備作業を開始する予定。来年上半期に単結晶ウェハの生産能力は16.5GWに達し、世界トップ3の単結晶ウェハのメーカーになると目指している。上流のウェハの生産能力が大幅に上昇し、再度垂直統合コストを最適化し、新技術の導入と量産の出荷時間をさらに短縮した。高効率単結晶モジュールの生産能力は急速に向上し、単結晶の年間出荷比は70%以上を占め、Cheetahに代表される高効率単結晶は端末市場で高いシェアと高い価格水準を維持している。

新発表した決算から見ると、会社の第3四半期と下半期の見通しは楽観的で、2019年第3四半期に、会社は太陽光発電モジュールの出荷量が3.2GWから3.5GWまでの間を予測している。営業収入は9.8億ドルと10.7億ドルの間で、粗利益率は18%と20%の間である。2019年通期では、太陽光発電モジュールの総出荷量は14.0GWから15.0GWまでの間で、成長は再び業界の平均水準を超え、単結晶の高効率モジュールが多結晶製品に取って代わり、会社の収益の増加点と成長動力になることが期待される。技術のリードも大きな要因である。ジンコソーラーSwan透明バックシートの両面モジュールが出荷開始してから、注文が既に来年までに並んでいる。そして、次世代の技術も準備ができ、試生産の良率は予想を超え、市場の推進も予定より早くなると思っている。

ジンコソーラー (JinkoSolar Holding Co., Ltd.) について

ジンコソーラー (NYSE: JKS) は太陽光発電産業のグローバルリーダーです。ジンコソーラーは中国、米国、日本、ドイツ、英国、チリ、南アフリカ、インド、メキシコ、ブラジル、アラブ首長国連邦 (UAE)、イタリア、スペイン、フランス、ベルギー、その他の諸国地域にあるさまざまな公益、商業、居住区顧客基盤に対し、自社ソーラー製品を供給し、自社ソリューションとサービス

を提供、販売。ジンコソーラーは2019年6月30日時点で、垂直統合ソーラー製品バリューチェーンを構築して、生産能力につきまして、シリコンインゴットとウエハーが10.5GW、太陽電池が7.4GW、太陽光発電モジュールが12.6GWに達している。

ジンコソーラーは世界で6ヶ所の生産拠点があり、日本（2）シンガポール、インド、トルコ、ドイツ、イタリア、スイス、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、チリ、オーストラリア、南アフリカ、アラブ首長国連邦、15の海外子会社を持ち、販売チームはイギリス、ブルガリア、ギリシャ、ルーマニア、ヨルダン、サウジアラビア、南アフリカ、エジプト、モロッコ、加納、ケニア、南アフリカ、コスタリカ、コロンビア、パナマとアルゼンチンに広がって、従業員が1万2,000人以上を雇用しております。

〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目2番1号京橋エドグラン9階

代表電話：03-6262-6009

FAX：03-6262-3339

ホームページ：<http://www.jinkosolar.com/index.html?lan=jp>